



MOBILITY FOR KIDS AND YOUNGSTERS

目次

1. レンラッドの概要
2. 内容物 / 配送
3. 記号
4. 重要なお知らせ
5. はじめての乗車
6. 乗車前点検
7. ペダルシステムの搭載
8. メンテナンス
9. 保証

1. レンラッドの概要

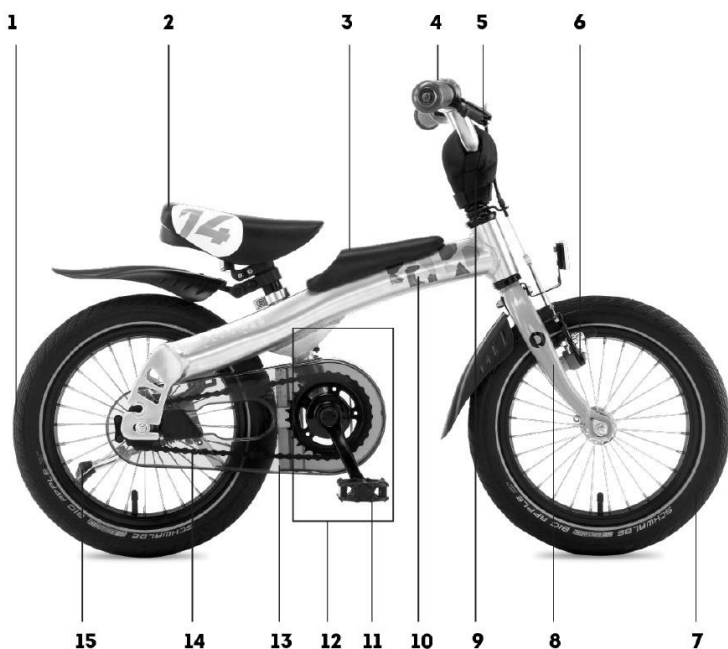
レンラッドは、低年齢児のために企画・開発された、高品質のキッズバイクです。レンラッド 12” は 2 歳半，レンラッド 14” は 3 歳半，レンラッド 16” は 4 歳半，レンラッド 18” は 5 歳半（年齢は目安です。体格により乗車可能年齢は異なります）に達したら，まずはランバイク・モード（ペダルシステムを搭載しない状態）でお楽しみください。お子様がバランス感覚を習得したら，専用ペダルシステムを搭載して，キッズバイク（ペダルシステムを搭載した状態）としてお乗りいただくことができます。



ランバイク・モード



キッズバイク・モード



各部の名称

- 1 後輪
- 2 サドル
- 3 フレームパッド
- 4 ハンドルバーとステム
- 5 ブレーキレバー
- 6 前ブレーキ
- 7 前輪
- 8 前フォーク
- 9 ハンドルバーパッド
- 10 フレーム
- 11 ペダル
- 12 ペダルシステム
- 13 チェーンガード
- 14 チェーン
- 15 キックスタンド

2. 内容物 ／ 配送

レンラッドは、レンラッド正規販売店の店頭でお買い求めいただいた場合は、ランバイク・モードに組み立てられた状態で納車されます。ネット通販等でお買い求めいただいた場合、ランバイク・モードに約 90%組み立てられた状態で配送されます。レンラッド車両本体には下記のパーツ・工具が付属しています。

- ・ 1 台 車両本体（90%が組み立てられた状態）
 - ・ 1 個 万能工具
 - ・ 3 個 アレンレンチ（6 角レンチ）
 - ・ 1 個 ペダルシステム（搭載用ボルト&ナット 2 セット付属）
 - ・ 1 個 チェーンガード（搭載用ネジ 1 本付属）
 - ・ 1 個 チェーン
 - ・ 1 冊 オーナーズマニュアル
 - ・ 1 個 アレンレンチ（サドル高調整用：レンラッド 12” に付属）
 - ・ 1 セット 前後フェンダー（レンラッド 12” には付属しない）
- * レンラッドの整備に必要な全ての工具が含まれているわけではありません。

組み立ての方法については、本マニュアル第 5 章の「はじめての乗車」、第 7 章「ペダルシステムの搭載」をご参照ください。

3. 記号

レンラッドは高品質なキッズバイクですが、不適切な操作・使用・メンテナンス・修理を行うと、車両に深刻なダメージを与えたり、事故が発生する原因となります。それら危険性について、本マニュアルでは以下の記号を使用して説明します。



この記号は、マニュアルの指示に従わなかった場合、子供の生命・健康に危険を及ぼす可能性があることを示します。



この記号は、レンラッドを正しく使用するために必要な知識のうち、特に重要なもの、完全に理解しなければいけないものを示しています。

4. 重要なお知らせ

4.1 保護者の責任

レンラッドは、正しく利用する限り、とても安全な乗物です。しかしながら、子供の遊びには、常に予測不可能な危険がつきまとうものです。それら危険については、製造元・輸入元および販売店は、責任を負いかねます。それゆえ保護者は必ずレンラッドに乗車する運転者に対して、自転車に乗ることは危険と隣り合わせである、ということを、認識させる責任があります。

4.2 レンラッドの正しい乗り方

レンラッドは公道走行が可能であると考えられます。しかしながら公道には、歩行者、他の自転車、自動車などが通行し、予測の難しい事柄が発生します。公園や広場、広い体育館等での練習をおすすめします。

★レンラッド 12”、レンラッド 14”、レンラッド 16”は、過去の判例と警察庁などの解釈より、「小児用の車」に分類されます。そのため、ランバイク・モード時のレンラッドには後ブレーキがありませんが、公道走行が可能であると考えられます（安全面を配慮して、ランバイク・モード時には公園等で走行することを強くお勧めします）。キッズバイク・モード時には前後ブレーキを使用できるため、自転車として公道走行が可能です。

★レンラッド 18”は、過去の判例と警察庁などの解釈より、「自転車」に分類されます。そのため、ランバイク・モード時には後ブレーキがないため公道走行ができません。必ず公園等で走行してください。キッズバイク・モード時には前後ブレーキを使用できるため、自転車として公道走行が可能です。

公道を走行する場合、必ず道路交通法をはじめとする日本国内の法律を守らなければなりません。レンラッドには、夜間走行時に道路交通法に適合するためのライトは装備されていません。必ず装備しましょう。

レンラッドには、ランバイク・モードから乗り始めましょう。この状態で自転車に慣れ親しむことで、補助輪なしの自転車に乗るために必要な、バランス感覚、操舵、ブレーキ操作を習得します。そ

れらを習得したら、短時間の簡単な作業によりペダルシステムを搭載して、スムーズに補助輪なしの自転車に移行できます。

4.3 子供の安全

レンラッドで公道を走行する場合、必ず道路交通法をはじめとする日本国内の法律を守らなければなりません。また、保護者は必ず運転者を監督していなければなりません。

子供の安全のため、以下の事柄を遵守してください。

- 子供をレンラッドに乗せる前に、保護者は必ず本マニュアルを通読して、内容を理解してください。
- レンラッドに乗ることができる運転者の体重は 60kg までです。
- 乗車時には、必ず自転車用のヘルメットを被りましょう。
- 乗り始めには、安全にレンラッドを楽しめるよう、バランスのとり方、操舵の仕方、ブレーキのかけ方について、運転者に丁寧に教えてあげましょう。上手に乗れるようになるまで、根気よく教えてあげましょう。
- 雨・雪・雹などの悪天候時には、屋外で乗車してはいけません。このような天候下では、路面が滑りやすくなっていますので、乗車すると転倒して、怪我をする危険性が高まります。
- 急ブレーキ、急発進など、乱暴な運転をしてはいけません。転倒して、怪我をする危険性が高まります。
- 車両の適合年齢（体格）に達していない子供はレンラッドに乗車してはいけません。
- ランバイク・モード時には、運転者の両足が地面にしっかり着くよう、サドル高を調節してあげましょう。
- 乗車するときは、しっかりとした靴を履きましょう。裸足やサンダル等で乗車してはいけません。
- ブレーキが正しく作動することを確認してから乗車しましょう。
- 乗車時にハンドルバーから手を離してはいけません。転倒して、深刻な怪我をする危険性が高まります。
- 乗車時は体にフィットした服を着用しましょう。明るい色の服、反射材が貼付された服がおすすめです。

5. はじめての乗車

本マニュアルに従って組み立て、車両が安全であることを確認してから乗車しましょう。組立作業に自信がない方は、お買い求めいただいた正規販売店または自転車店に作業を依頼しましょう（工賃が必要となる場合があります。工賃はお客様のご負担となります）。

5.1 概要

- ・ 保護材や保護キャップを車両から取り外します。
- ・ 全てのボルト・ナット・ネジが正しく締め付けられているか確認します。
- ・ ハンドルバーを前輪（進行方向）に対して直角になるようにセットして、ボルトを締め付けて固定します。
- ・ 前輪を前フォークに装着します。
- ・ 前ブレーキを装着して、ブレーキが正しく作動することを確認します。
- ・ ハンドル高を調節して、子供が快適な姿勢で乗車できるようにします。
- ・ サドル高を調節して、子供が快適な姿勢で乗車できるようにします。
- ・ ペダルシステムの搭載方法は、第7章に記載しています。
- ・ レンラッドに乗車する際は、自転車用ヘルメットを被るようにしましょう。

5.2 ハンドルバーとハンドルバーパッド

ハンドルバーを装着するには……

- 1 ハンドルバーをマウント部に挿入します。
- 2 ハンドルバーの高さは、子供の体格に合わせて調節します。このとき必ず、最低差込量を守るようにします（次頁の写真参照）。ハンドルバーのステムに、最低差込量が“ギザギザ”で表示されています。この“ギザギザ”より深くポストを挿入しなければいけません。



- 3 ハンドルバーが前輪（進行方向）に対して直角になるようにセットした後，6 角レンチを用いて，6 角ボルトを時計回りに回転させて，ハンドルを固定します（締め付けトルクは 15～20Nm）。



ハンドルバー（ステム）が正しく固定されていないと，子供は転倒し，怪我をする危険があります。最低差込量を守るようにします。正しい深さまで挿入されていれば，最低差込量の”ギザギザ”は外側からは見えないはずです。

ハンドルバーパッド

レンラッドには標準でハンドルバーパッドが付属しています。ハンドルバーを固定したら，ハンドルバーパッドのベルクロを合わせて固定しましょう。

5.3 前輪の装着

- 1 前輪ハブ（前輪中心部のこと）両端に装着されているナットを反時計回りに回転させて緩めて，取り外します。
- 2 前輪をフォークに装着します。そのとき，フォークの穴にロックワッシャーの凸部が入るようにします。



- 3 前輪のハブ両端のナットを時計回りに回転させて締め付けて、前輪をしっかりと固定します（締め付けトルクは 15～20Nm）。



前輪が正しく固定されていないと、子供は転倒し、怪我をする危険があります。

5.4 前ブレーキ

前ブレーキは製造工場にて大まかに調節されています。

★レンラッド 12”， レンラッド 14”， レンラッド 16” の場合

- 1 ブレーキパッドを両手で握りながら、ブレーキケーブルを前輪側のマウントから外します。



- 2 グリップ側の切り欠きに、ケーブルとタイコ（ケーブルの端）を合わせて、ケーブルのグリップ側を固定します。



- 3 作業1と同様にブレーキパッドを両手で握りながら、ブレーキ側のケーブルとタイコを固定します。

★レンラッド18”の場合

作業方法は1, 2と同じです。作業後ゴムカバーを掛けます。

*微調整はケーブル長さと左右の調節ネジで実施します。作業は必ず自転車店等にて実施してください。



ブレーキレバーのリーチ調節

レンラッドの前ブレーキレバーは、小さな子供の手でもブレーキレバーに指が届くよう、調節用のネジが搭載されています。乗車前に必ず以下の点を確認しましょう。

- ・ ブレーキレバーを容易に操作できること。
- ・ ブレーキレバーとハンドルバーグリップとの距離が、子供の手の大きさに合わせて調節されていること。その調節用のネジは写真の位置にあります。



- ・ 調節用ネジを時計回りに回転させると、ブレーキレバーとハンドルバーグリップとの距離は短くなります。子供の指が最低でも2本（人差し指と中指）、ブレーキレバーに楽に掛かり、軽く握ることでブレーキを掛けられるように調節します。



ブレーキレバーを調節するとき、レバーをグリップに近づけ過ぎてしまうと、レバーを握っても、完全な制動力を得られ

なくなってしまうことがあります。ブレーキレバーを調節したときはもちろんのこと、乗車するときは必ず、事前にブレーキがきくことを確認しましょう。

5.5 ハンドルバーの調節



ハンドルバーの角度と高さは、運転者の体格に応じて、調節することができます。それにはまず、運転者をサドルに座らせてください。上半身を少しだけ前傾させた状態で、両手でハンドルバーを握ったとき、腕が若干曲がるくらいに、ハンドルバーの高さと角度を調節します。

ハンドルバーの角度調節

- 1 6角ボルトを反時計回りに回転させて緩めます。



- 2 ハンドルバーの角度を、運転者の体格に合わせて変更します。



ハンドルバーは必ず、中央で固定しましょう。

- 3 6角ボルトを時計回りに回転させて、ハンドルバーを固定します（締付トルクは 10-15Nm）。



乗車時には必ず、ハンドルバーが正しく固定されていることを確認しましょう。それを怠ると、運転者が転倒し怪我をすることがあります。

ハンドルバーの高さ調節



ハンドルバーのステムには“ギザギザ”が刻まれており、最低差込量を記しています。ハンドルバーの高さ調節時には、このギザギザよりも深く、ステムをフレームに挿入しなければいけません。ステムを挿入したとき、外からギザギザが見えてはいけません。

- 1 ハンドルバーからハンドルバーパッドを取り外し、6 角ボルトを反時計回りに回転させて緩めます。



- 2 ハンドルバーの高さを、運転者の体格に合わせて変更します。このとき、最低差込量を厳守しなければいけません。最低差込量より深く挿入していれば、最低差込量を示すギザギザが、外から見えることはありません。
- 3 2 で設定した高さを保ちながら、ハンドルバーを進行方向に対して直角にします。前輪を目印にすると、正しく作業できます。
- 4 1 で緩めた 6 ボルトを時計回りに回転させて固定します（締付トルクは 10-15Nm）。
- 5 ベルクロを合わせてハンドルバーパッドを装着します。



ハンドルバー（ステム）が正しく固定されていないと、運転者は転倒して、重大な傷害を負う可能性があります。

5.6 サドル高の調節

ランバイク・モード時では、運転者の両足が地面にしっかり着地

するようにサドル高を調節します。特に乗り始めは、子供はバランス感覚を身に付けていないので、転倒する可能性が高いため、サドルは最も下にセットしておきましょう。

キッズバイク・モード時では、運転者の両足が「つま先立ち」よりは余裕があり、「両足べったり」よりは高くなるように調節します。この高さに調節すれば、ペダリング時に一方のペダルが最も下にあるとき、運転者の足は少し曲がる程度になるはずです。

なお、キッズバイク・モードに変更したてのときは転倒する可能性が高いため、サドルは上記の状態より、心持ち低めにしておきましょう。

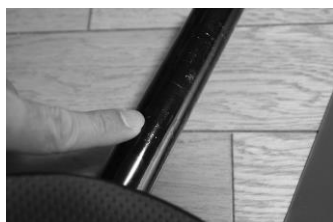
- 1 シートクランプにセットされている六角ボルトを、六角レンチで反時計回りに回転させて緩めます。



- 2 サドル高を運転者の体格に合わせてセットして、作業1で緩めた六角ボルトを時計回りに回転させて固定します（締め付けトルクは10Nm）。



シートポストには、ハンドルのステムと同様“ギザギザ”により最低差込量が示されています。サドル高の調節時には、このギザギザよりも深く、シートポストを挿入しなければいけません。シートポストを挿入したとき、外からギザギザが見えてはいけません。それを怠った場合、運転中にシートポストが破損して運転者が深刻な傷害を負う可能性があります。



レンラッド 12” , レンラッド 14” , レンラッド 16” ではペダルシステムを装着すると、サドル高はランバイク・モード時のように低くすることはできません。また、運転者の成長に合わせて、頻繁にサドル高を調節してあげましょう。

5.7 サドル位置の調節

- 1 サドル下の 6 角ボルトを、反時計回りに回転させて緩めます。このとき、保護キャップを取り外す必要はありません。



- 2 サドル位置を前後させて、好ましい位置に調節します。
- 3 作業 1 で緩めた 6 角ボルトを時計回りに回転させて、固定します（締め付けトルクは 15Nm）。サドル高は頻繁に調節すべきですが、サドル位置は一般的には変更する必要がありません。サドル高調節で対応できない微調整が必要な場合は変更しましょう。

以上でランバイク・モードで乗車するための組み立て、調節は完了です。今一度、各部が正しく組み立てられているか、ネジやナットの緩みがないか確認してから乗車しましょう。

6. 乗車前点検

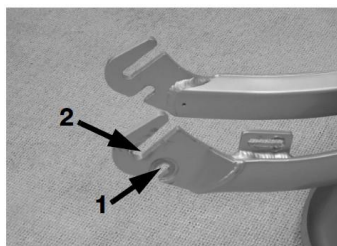
乗車前は必ず、ブレーキが正しく作動すること、サドル、ハンドル、ステムが正しく固定されていることを確認しましょう。タイヤが磨耗していないか、空気圧が適切か確認しましょう。乗車前点検を怠ると、車両が破損したり、運転者が怪我をすることがあります。

7. ペダルシステムの搭載

レンラッドは、最初はランバイクとして乗車します。運転者がバランス感覚を習得したら、同梱された工具を用いた簡単な作業により、キッズバイク（子供用自転車）にステップアップさせることができます。モード変更の作業に自信がない方は、作業を自転車店に依頼しましょう（工賃が掛かる場合があります。工賃はお客様のご負担となります）。



レンラッド 12", レンラッド 14", レンラッド 16", レンラッド 18" New では、フレームに後輪差込穴が二つあります。ペダルシステムを装着すると、サドルはランバイク・モード時の最低高まで下げることができません。



（上の写真は作業のため車両を上下逆さまにして撮影しています）

- ・マウント 1 はランバイク・モード用
- ・マウント 2 はキッズバイク・モード用



レンラッド 18" は、フレームの後輪差込穴は一つだけです。



ペダルシステムを適切に装着しないと、乗車中にペダルシステムが脱落して、運転者は転倒して、重大な傷害を負う可能性があります。

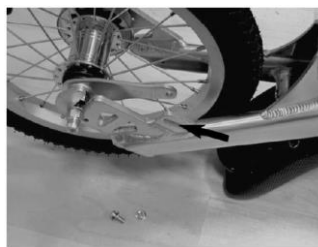
- 1 サドル高が低めに設定されていると、ペダルシステムを搭載でき

ません。仮に、サドルを高めに設定しておきます。

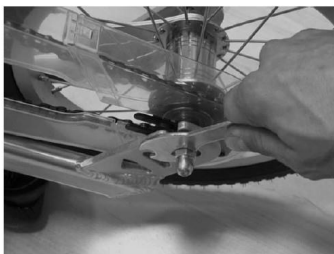
- 2 自転車を上下逆にして、ハンドルバーとサドルで自転車を立てて、作業しやすくします。
- 3 ペダルシステムを搭載する場所に被せてあるプラスチックカバーを外します。



- 4 ブレーキのトルクアームを固定しているネジを反時計回りに回転させて取り外します。



- 5 後輪のアクスルを、左右それぞれ反時計回りに緩めて、後輪をフレームから取り外します。



- 6 ペダルシステムをフレームに搭載します(チェーンは車体左側)。



- 7 6角ボルトとナットを時計回りに回転させて締め付けて、ペダルシステムを固定します。



6 角ボルトとナットは、しっかりと締め付けましょう(締付トルクは8-10Nm)。ペダルシステムが正しく装着され、6 角ボルト&ナットが締め付けられていれば、ペダルシステムは少しも動くことはありません。ペダルシステムを適切に装着しておかないと、乗車中にペダルシステムが脱落して、運転者は転倒して、重大な傷害を負う可能性があります。



6 角ボルトには、緩み防止剤が塗布されています。一度搭載したペダルシステムを取り外して、再度ペダルシステムを搭載するときは、もう一度この緩み防止剤を塗布する必要があります。緩み防止剤は商品名『ロックタイト』などとして販売されています。自転車店等で購入しましょう。

- 8 取り外した後輪から、アクスルナット、ワッシャー、スクリューを取り外した後、スプロケットの保護キャップを取り外します。



- 9 チェーンをセットして、続いて後輪をフレームに搭載します（フレームマウントの高い側にしかセットできません）。



- 10 レンラッドのチェーンガードは 3 つに分かれています。1 つは、あらかじめペダルシステムに搭載されています。残り 2 つを仮に組立てた後、クランクに通してから、搭載します。続いて、リヤスプロケットを隠すためのゴムを装着します。



- 11 チェーンガードからネジを取り外します（あらかじめネジが装着されています）。
- 12 チェーンガードを，“カチッ”というクリック音が聞こえるまで押して，2箇所固定します。あまり強く力を入れてはいけません。過度に力を入れると，チェーンガードを破損してしまいます。



- 13 上下逆さまにしていた車体を元に戻します。続いて，先に外したネジを用いて，チェーンガードを固定します。



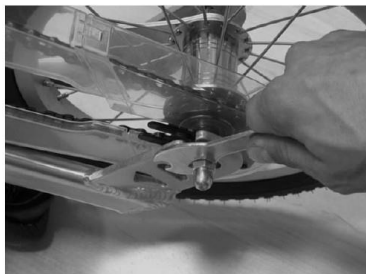
- 14 ブレーキのトルクアームを所定の位置にセットして，ネジで仮留めします。このとき強く締め付けて完全に固定してはいけません。



- 15 後輪を後方に引き，チェーンを張ります。チェーンには，約 10mm

の調節シロがあります。チェーンがピンと張りつめるほどに後輪を引いてはいけません。調節後、チェーン中央部を指で押したとき、約 10mm ほど上下すれば良いでしょう。

- 16 アクスルナット（&ボルト）を時計回りに回転させて後輪を固定します。このときチェーンの張りが適正であることを確認します（締付トルクは 10-15Nm）。



- 17 先に仮留めしていたトルクアームのネジを固定します。これでペダルシステム搭載は完了です。作業が終わったら、全ての部品が正しく固定されていることを確認しましょう。

ペダルの装着



ペダルを装着するときは、ペダルをクランクに対して直角にします。斜めにしてペダルをクランクに装着してしまうと、ネジ山を破損して、ペダルを装着できなくなってしまいます。ペダルを適切に装着しておかないと、乗車中にペダルが脱落してしまい、運転者は転倒して、重大な傷害を負う可能性があります。

- 1 “R” の刻印のあるペダルを、R のシールの貼ってある側のクランクにセットし、ペダルを時計回りに回転させて装着します。
- 2 “L” の刻印のあるペダルを、L のシールが貼ってある側のクランクにセットし、ペダルを反時計回りに回転させて装着します。

8. メンテナンス

ブレーキが正しく作動することを確認しましょう。ブレーキパッド表面は常に清潔でなければいけません。ブレーキパッドは正しい位置に、適切な力で固定されていることを確認しましょう。ブレーキパッドを交換する際は、レンラッドのアルミリムに使用できる素材の製品を選ぶ必要があります。レンラッド正規販売店または自転車店に相談すると良いでしょう。

ハンドルバーとサドルが、正しく固定されていることを確認しましょう。

チェーンの張りが適正であるか、確認しましょう。もしもチェーンが弛んでいたなら、リヤアクスル（とトルクアームを固定しているネジ）を緩めて、後輪を後方に引くことで、チェーンの遊び量を調節することができます。

タイヤの空気圧を確認しましょう。空気が抜けた状態で乗車すると、タイヤはパンクしやすくなります。タイヤのサイドウォールに記載されている適正空気圧を目安に空気を入れましょう。

破損した部品や消耗した部品は速やかに交換しましょう。純正部品は正規販売店にてお買い求めください（消耗品の例：タイヤ、タイヤチューブ、ブレーキケーブル、ブレーキパッド、チェーン、スプロケット、ハンドルバーグリップ）。部品交換が必要となるメンテナンスには、特別な知識と技術が求められます。正規販売店または自転車店で作業してもらいましょう。

一方で、ユーザー（保護者）による日常のメンテナンスは大切です。定期的な洗車、注油、各部の緩み・磨耗の確認をしましょう。回転部分などに子供が手を触れると大変危険です。メンテナンスは必ず保護者が実施しましょう。ただし、子供はパパやママ（保護者）のすることに興味を持つものです。危険がない作業については、必ず保護者が監督したうえで、お手伝いさせてあげるのは良いことです。きっとより自分の自転車を好きになってくれるはずです。また、自転車という複雑な乗り物の仕組みの理解に役立つはずです。

8.1 洗車

洗車には、強力な洗剤を使用してはいけません。スポンジや柔らかい布に水で薄めた中性洗剤をつけて、車両全体を拭くことで汚

れを落とします。洗車は、車両の上から、前から行い、ホイール、チェーンなどの油汚れがある部分は、後で行うようにします。

ホイールリムなどに不着した頑固な油汚れには、歯ブラシなどを用いると良いでしょう（強くこすると塗装表面を傷めます。ご注意ください）。

チェーンの洗浄には、専用の洗浄剤を用います。自転車店で購入できます。車体全体の汚れを浮かせたら、汚れを水で洗い流します。続いて、車体の水気を拭き取ります。乗車して近所を一回りすれば、手が届き難い場所に入り込んだ水気を吹き飛ばすことができます。

8.2 注油

レンラッドで注油が必要なのは、チェーンとブレーキケーブルの二箇所です。チェーンには、専用のチェーンオイルを使用します。自転車店で購入し、8.1の作業により洗浄した後、注油します。ブレーキケーブルは、レバーからケーブルを取り外し、ケーブルのインナーに粘度の高い潤滑剤を注油します。スプレータイプのものを利用します。粘度の低い潤滑剤を使用してはいけません。自転車店に用途を伝え、適切な商品を選んでもらうと良いでしょう。

8.3 各部の緩み確認

本マニュアル第6章「乗車前点検」でも説明しましたが、定期的に各部の緩みがないかを確認しましょう。自転車には稼動部分が多く、また走行することで振動が発生します。製造工場で適切に締め付けたボルトやナットでも、時間が経つにつれて、緩んでしまうことがあります。

車体を軽く持ち上げて、揺すってみましょう。もしも異音が聞こえたら、どこかが緩んでいます。緩んでいる場所がわからないときは、そのまま乗り続けてはいけません。正規販売店または自転車店に相談してください。

8.4 車両の保管

車両の保管方法はメンテナンスではありませんが、車両を良好な状態に保つという意味では、メンテナンスと同様に大切です。保護者の方は適切な保管方法を理解し、遵守してください。

車両を「雨ざらし・日ざらし」にしてはいけません。「雨ざらし・

日ざらし」にしてしまうと、塗装やメッキ等の表面処理が急速に劣化してしまいます。錆が発生しやすくなります。稼動部が固着しやすく、スムーズに動かなくなります。

車両を長期間良好な状態に保つため、ガレージや屋根付きの駐輪場に停めることをお勧めします。住環境等の問題で、そのような適所に駐輪できない場合は、自転車カバー（サイクルカバー）を利用すると良いでしょう。自転車店等で購入できます。

9. 保証

レンラッドは、工業大国ドイツで企画された高品質なキッズバイクです。製造過程では最大の注意を払っておりますが、自転車は複雑な機械製品ゆえ、工場出荷時に欠陥が無いとは言えません。製造元および日本総代理店では、不具合のある製品について、以下のよう

- ・ フレーム、フォーク等、自転車の基本骨格に関わる部分は3年
- ・ 上記以外の部品は1年

ただし、保証を適用できるのは、オリジナルオーナー（車両をご利用になる最初の子供本人）に限ります。第三者が車両を譲り受けた場合は、上記の保証適用期間内であっても、保証を受けることは出来ません。あらかじめご了承ください。

オリジナルオーナーの証明は、車両をお買い求めいただいた店舗が発行した領収書（または納品書）と、本マニュアル末尾の保証書により行います。領収書（または納品書）と保証書が無いと、保証を受けることが出来ません。

保証を受けることができる車両は、本マニュアルに従って適切に乗車・メンテナンスされた車両に限ります。不当に乱暴に乗車されたと判断された車両、不当に粗末に扱われた車両、適切なメンテナンスを受けていないと判断された車両については、保証を受けることが出来ません。また、消耗品（タイヤ、タイヤチューブ、ブレーキケーブル等）は、保証期間内であっても、保証で交換することはできません（出荷時の初期不良は除きます）。ご了承ください。



MOBILITY FOR KIDS AND YOUNGSTERS

保証書

保護者の氏名／お子様の氏名：

国名：日本

郵便番号：

住所：

電話番号：

電子メールアドレス：

車名：

車体番号：

購入年月日：

販売店名：